

金沢市夕日寺健民自然園における  
 アメリカザリガニ連続捕獲装置の実証実験  
 高橋清孝・長谷川政智（シナイモツゴ郷の会）・  
 工藤秀平・商奕晨・西川潮（金沢大）

アメリカザリガニ連続捕獲装置の実証実験を通して、トンボサンクチュアリ再生のための基礎データを得ることを目的に試験と調査を実施した。

1 設置と捕獲回収

石川県立夕日寺健民自然園は金沢市の郊外に位置し、トンボの保護繁殖を目的にした7つの池が設置されている。トンボ池ではアメリカザリガニが繁殖しトンボが減少している。アメリカザリガニ駆除を省力化するため、比較的面積の大きな下流の3つのため池に計5台の連続捕獲装置を6月23日に設置した（図1）。捕獲回収作業は金沢大学西川研究室が6月29日～10月29日までの期間に実施した。



図1 連続捕獲装置の設置位置

2 試験結果

水温

連続捕獲装置を設置した3つの池の平均水温は6月30日から9月21日までは20～29℃の比較的高水温で推移し、9月27日～10月29日の間は降温して14～19℃で推移した。

連続捕獲装置による捕獲

連続捕獲装置5基によって、アメリカザリガニを期間中合計2,257尾捕獲した。内訳は雄1,028頭、雌1,173頭、性別不明の幼体56頭であった。総捕獲数は、期間中初回の調査時（6月

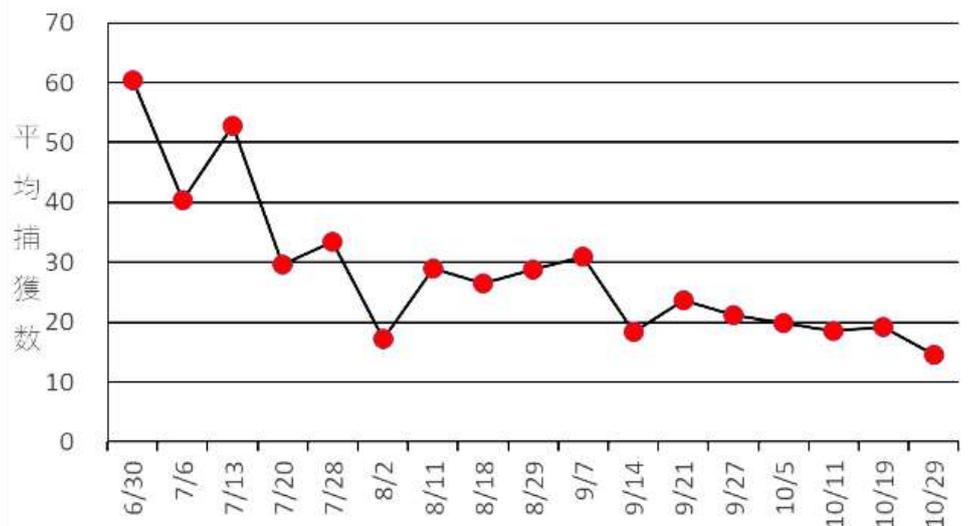
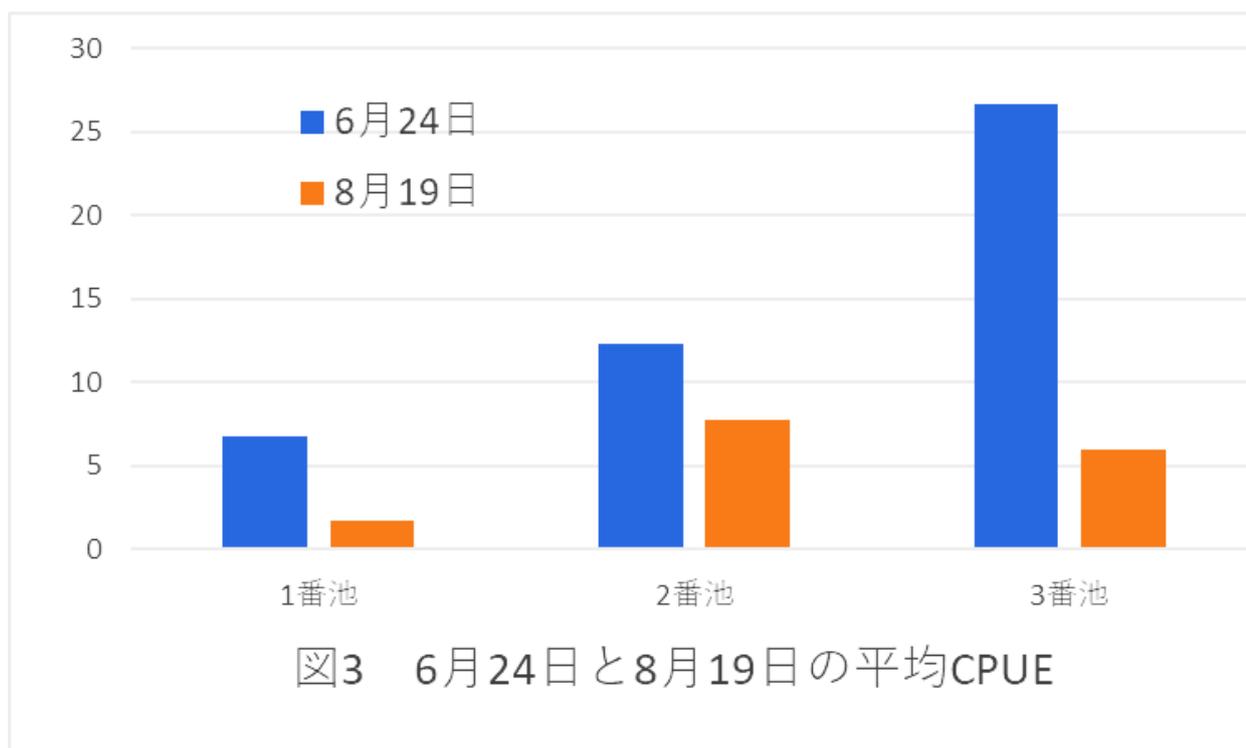


図2 連続捕獲装置による1～3番池平均CPUE（平均捕獲数）の推移

30日)は302頭であったが、9月21日には108頭、開始時の35.3%まで減少した。各池におけるCPUE(1基当たりの捕獲数)は1番池が0~22頭/基、2番池が6~52頭/基、3番池が6~185頭/基だった。各池のCPUEは開始当初に高かったが、2ヵ月後の8月28日には開始時の30%前後に低下、その後は開始時の20~30%で推移した(図2)。

### アナゴカゴによる生息密度調査

1~3番池において、6月23日~24日と8月18日~19日にかけて、各池に3~5個のアナゴ



カゴを設置して、アメリカザリガニを捕獲した。6月24日の捕獲では各池の平均CPUEは7~27頭/カゴだったが、8月19日には2~8頭/カゴに大きく減少した(図3)。連続捕獲装置で駆除したことにより、生息密度が大きく減少したものと考えられた。

### 今後の課題:

全体としてはアメリカザリガニの生息個体数は減ったが、大型個体の減少に伴い、体サイズ構成に変化が生じ、小型個体の割合が高まった。これは、捕獲しきれなかった成熟個体の繁殖による小型個体のリクルートや、大型個体の減少に伴う小型個体の活発化によるものと思われる。そのため、連続捕獲装置の設置とともに、小型個体を中心に捕獲できる手法、例えばしばづけなどを併用することが望ましい。

上流のため池から下流のため池にアメリカザリガニが侵入する可能性もあるので、すべての池でアメリカザリガニの継続捕獲を進めていくことが望ましい。

今後、在来種の応答や回復を見ることで、連続捕獲装置によるアメリカザリガニ低密度下の効果をより明確にすることができるだろう。